

# 日食残念記（コロンビアにて）

鈴木 治夫

妻と二人で日食の前々日にコロンビア北部の観光都市カルタヘナから地元のバスで5時間、カルタヘナの南西やや内陸へ入ったモンテリア市に入りました。この日の天気はどんよりとした晴れ、湿気の多さが第一の悪い予感でした。まあ南米の太平洋岸はエル・ニーニョで雨が多いが、ここはカリブ海に近いし何とか当日はいけるかと楽観的でもありました。

前々日の25日はかんかん照り。これが当日だったらと思ったり、この分なら当日もいけると大いに期待もしました。前夜祭ということにして近くの LEY というスーパーでビールなどを仕込み、散髪も済ませ、さらに露天で牛肉の串焼きなどを買い込みお払いの儀式を済ませました。ちなみにコロンビアのビールは AGUILA (わし)、LEONA (ライオン)、COLOMBI ACULUB があり、250cc 缶で 510 ~ 640 ペソ (約 50 ~ 62 円)、アルコール 4% というもの。

さて当日朝一番、薄日ながら日が射していました。でも空はどんよりして積雲系の雲が点々と多く、これはあかんかもと第二の悪い予感がしました。

観察場所はホテルの向かいのホテル専用駐車場。外来の邪魔は入らず、南側には障害物なし、ホテルのシートが北側に干してあるだけで広々としていました。前日のスーパーで買った SOL という雑誌の日食予報によると、MONTERÍA 市では、第一接触 11 時 17 分 24 秒、第二接触 12 時 50 分 27 秒、皆既は 3 分 58 秒間というものでした。

11 時頃双眼鏡と雑誌 SOL の付録の黒めがねを持ち駐車場へ。そこへ同じホテルに泊まっていたスイス人男性も降りてきて私たちに加わりました。この人は奥さんと共に南米の果てパタゴニアを回って約一年の旅の帰路にあり、道中知り合った日本人から日食のことを聞き、初めての日食体験をしにやってきた人ということがわかりました。一年も仕事をせず帰国してから仕事があるのかと心配すると、休職願いがしてあるので大丈夫という返事でした。

「Somthing's coming !」とこの男の声。なるほど右から欠け始めています。よしよしこの調子。「Biscuit, one bite !」これなんじゃらほい？ 見上げると太陽はひとかぶりされたビスケット状になっていました。11 時 40 分頃でしたか。

心配なことに時々雲が通り太陽が隠れます。何とかたのむで……。でも祈りもむなしく 12 時半頃までは見え隠れして三日月くらいにまでなっていた太陽も、ついに厚い雲にすっぽり覆われてしまいました。青空は全くなく、雲の薄いところが少し白く光っている程度。時は容赦なく流れあたりはぐーんと暗くなってきました。

12 時 50 分、一段と暗くなったその瞬間雲の色がぱっと変わったように見えました。ダイヤモンドリング、そしてコロナの光が雲を照らしているのだと感じました。くやしい！ いま雲の上では……。

でも見えるのはコロナ色(?)の雲ばかり。突然近くでおもちゃの花火が上がりました。わーっ

という声もどこからか聞こえてきます。

そして無情な3分余りは過ぎ去りぱっと雲が明るくなりました。万事休す！ 恨みの雲を見ながらホテルへ。するとテレビが日食の実況をやっていて感激した人々が「エクセレンテ」とか「ダイヤモンド」とか叫んでいるのが写っていました。どこか見られた場所からの中継なんでしょう。ダイヤモンドリングが良かったとか言っているのです。ホテルのマダムもずっとテレビを見ていたらしく、「ムイ ビエン」を繰り返していました。こちらは「テンゴ マラ スエルテ」でした。午後3時頃再び快晴となり、くやしさを倍増、太陽が憎い気持ちでした。

思えば2年前にこの町へ下見に来て宿まで確保しておいたのにとがっかりした一方、ある旅行社がこの地へのツアーをいったん企画された後ある筋のお達しでコロンビアを断念、ベネズエラへ変更されたことが素晴らしい判断だったと敬服したり、まあ三度と来ないだろうこの小さな町での人々との出会い、交わりを体験できたことが救いだと思ったりで、この晩は AGUILA にどっぷりとつかりました。来年のミュンヘンは再びやけビールになるかどうか「Who knows」ですね。

最後に日食成功の皆さんへ。どうか写真一枚恵んで下さい。お願いします。